

1. 木質バイオマス関連情報

■大阪ガス（株）（大阪）100%子会社の Daigas エナジー（株）（大阪）が、茶かすを燃料とするバイオマスボイラシステム「D-Bio Steam」を和歌山ノーキョー食品工業（株）（和歌山）の海南工場に設置することを決定し、エネルギーサービス契約を締結したと発表。同工場の麦茶飲料等製造時に発生する茶かすは含水率が60～70%と高く、安定燃焼させることが難しいため、従来は廃棄物として排出していた。Daigas エナジーは（株）大川原製作所（静岡）製の流動床炉と三浦工業（株）（愛媛）製の排ガスボイラを組み合わせ、Daigas エナジーの燃焼技術・廃棄物処理技術を活かしたバイオマスボイラシステム「D-Bio Steam」を構築。同システムにより、茶かすの安定的な自然と排ガスボイラで発生した蒸気の生産工程への利用が可能に。和歌山ノーキョー食品工業は D-Bio Steam の導入により廃棄物量が約90%/年減少する見込みで、さらにカーボンニュートラルな蒸気の利用により約600t/年のCO₂削減効果を見込む。今後工事を進め、2023年5月のエネルギーサービス開始を目指す【大阪ガス（株）：2021/09/21】

<https://www.osakagas.co.jp/company/press/pr2021/129924046443.html>

■国際紙パルプ商事（株）（東京）、ビッグデータを活用したバイオマス発電所運転支援システム「BMecomo」について、三重エネウッド（株）（三重）とサービス利用契約を締結。BMecomoとは、ビッグデータ解析やAI・IoT等の最新テクノロジーの活用と徹底的な「見える化」により、バイオマス発電所の運転・設備・事業管理、収益最大化を目的とした運転支援システム。三重エネウッドは、近隣の山林に放置された未利用間伐材等を木質チップ燃料とするバイオマス発電事業に取り組んでおり、2014年11月より稼働。発電端出力は5,800kW、発電した電力はFITを通じて売電している。三重エネウッドへのサービス提供開始は2021年11月頃を予定【国際紙パルプ商事（株）：2021/09/22、三重エネウッド（株）】

https://www.kppc.co.jp/ja/news/irnews/auto_2021092240101/pdfFile.pdf

https://www.m-ewood.co.jp/business_biomass

■工場・事業場に設置されたばい煙発生施設に該当するボイラに係る規模要件について、伝熱面積に関する基準を廃止する措置等を講じた「大気汚染防止法施行令の一部を改正する政令」が閣議決定（9月24日）。2022年10月1日より施行される。昨年11月内閣府に設置の「再生可能エネルギー等に関する規制等の総点検タスクフォース」による規制の点検において、事業者よりボイラについてはバイオマスを燃料とした場合に他の燃料と同出力であるにもかかわらず、政令において定める伝熱面積の要件により規制対象となりやすく公平でないこと等から、燃焼能力のみによる規制にすべきとの要望があった。これを受け、環境省に専門家等からなる「ばい煙発生施設影響評価検討会」を設置。検討した結果、「伝熱面積の要件については無くすことが適当である」旨を結論とする「ばい煙発生施設影響評価検討会報告書」が取りまとめられた。これに伴いバーナーを持たないボイラについても、バーナーを持つボイラと同規模であるにもかかわらず規制対象外となることから、公平な規制にするため「バーナーの燃料の燃焼能力」から「燃料の燃焼能力」に改正することとなった。詳細および8月7日～9月6日まで実施した政令案に関するパブリックコメントの結果については、下記環境省サイトを参照【環境省：2021/09/24、環境ビジネスオンライン：2021/09/28】

<http://www.env.go.jp/press/110025.html>

<https://www.kankyo-business.jp/news/029600.php>

■サンフロンティア不動産（株）（東京）、同社が手掛けるリブランニング®（不動産再生）物件のリニューアル工事で排出されるCO₂を、再生可能エネルギー由来のJ-クレジットを活用してオフセットし、CO₂排出実質ゼロとする取り組みを開始したと発表。2021年8月以降に竣工するすべてのリブランニング®物件に導入するとしており、8月に竣工した「AKIHABARA CENTRAL SQUARE」、「TERRA PORT MEGURO」で、既に実現させたことも公表。今回調達したのは新東海製紙（株）（静岡）の

製紙工場において、ボイラの熱源を従来用いていた油燃料から、街路樹の剪定材や建築廃材の木質チップ燃料に切り替えることにより創出された J-クレジット。(一社)日本建築学会(東京)のLCA ツールを応用しリニューアル工事(外壁補修工事、内装改修工事、電気設備・空調換気設備・衛生設備改修工事)にかかる CO₂ 排出量を算出。その排出量相当を J-クレジットで調達した。同社はこれまでも(株)日本省電(東京)が調達する森林由来の環境クレジットを利用した「森のでんき」等のリプランニング物件への導入を進めてきている【サンフロンティア不動産(株):2021/09/24、PR TIMES:2021/05/10】
https://www.sunfrt.co.jp/latest/files/2109_0005/210924.pdf
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000026.000069250.html>

■(株)群馬銀行(群馬)、10月1日付で再生可能エネルギーの普及・促進に向けた取組みを幅広く支援する、総額500億円のファンド(投融資枠)「GB グリーンファンド」を創設。資金使途は「再生可能エネルギー開発案件(太陽光、水力、バイオマス、風力、地熱発電など)」と「脱炭素に資する事業・取組み等に対する案件(サステナビリティ・リンク・ローンなど第三者の認証によって着実に温室効果ガス削減が見込まれる案件)」で原則国内のプロジェクト/事業者が対象。1件当たりの下限/上限金額は特に定められていない【(株)群馬銀行:2021/09/28】
<https://www.gunmabank.co.jp/info/news/20210928b.html>

■損害保険ジャパン(株)(東京)、輸入バイオマス燃料の安定供給を支援する保険を開発。昨今増加しているバイオマス燃料について、輸入販売業者の仕入先・自社供給網等で発生する偶然な事故によって供給が中断・停止した場合に、輸入販売業者が燃料の買主との燃料供給契約に従って、代替の燃料を調達する際にかかる追加の費用等を補償する。偶発な事由とは、サプライチェーンにおいて発生する火災・爆発・自然災害などに起因する売主の燃料供給停止のこと。従来は燃料供給業者が、買主である発電所等の燃料使用者との間で締結する燃料供給契約書において、燃料供給が中断した場合の代替燃料の調達(スポット買付け等)や、各種超過コスト等を負担する約定を行うことが一般的だった。しかし輸入燃料については供給不能期間が大規模かつ長期にわたり、対応費用が巨額になるケースも想定され、買主側も供給中断リスクを抱えながらバイオマス発電事業を行う必要があるなど、業界共通の主要な課題の一つとし

て認識されている。そこで売主・買主双方を守るための保険として今回の保険を開発。保険商品の組成・提供検討は2021年9月に開始【損害保険ジャパン(株):2021/09/29】
https://www.sompo-japan.co.jp/-/media/SJNK/files/news/2021/20210929_1.pdf?la=ja-JP

■石油輸出国機構(OPEC)、中長期的な世界の石油需要見通しを公表(9月28日)。脱炭素化の流れを受けて2035年以降に需要の伸びが停滞すると見込む一方、2045年時点でも石油が最大のエネルギー源であり続けると予測。OPECの見通しによると、2045年の1次エネルギー需要のうち石油が占める割合は20年の30.0%から28.1%へと若干低下するものの首位を維持、ガスが24.4%、石炭は26.5%から17.4%に減少、原子力は6.2%、バイオマスは10.5%の見込みとのこと【Yahoo! Japan:2021/09/29】
<https://news.yahoo.co.jp/articles/3a818eb3e0cce381c157778f1cc7205d0d551cc9>

■双日(株)(東京)、東京大学発ベンチャー企業の(株)本郷植林研究所(東京)と、植林後5年で伐採可能な早生樹の苗木を生産する「双日モリノミライ(株)」設立に合意し、合弁契約を締結。双日モリノミライは、植林後5年間で約200m³/ha以上の成長量が期待される高成長量・短伐期が特長で、本郷植林が宮崎県で試験植林している「ハコヤナギ」の苗木を生産する。バイオマス発電用燃料の安定供給に適していると考え、早期の事業化を狙う。また荒廃農地や未造林地などにハコヤナギを植林し、地域に密着した森林資源サイクルの実現も目指す【双日(株):2021/09/30】
<https://www.sojitz.com/jp/news/2021/09/20210930.php>

■林野庁、令和2年(2020年)の木材需給に関するデータを集約・整理した「令和2年木材需給表」を取りまとめ、公表。木材自給率は、2019年比4ポイント増の41.8%と、1972年以来48年ぶりの高水準に。木材の需要および供給(国産材、輸入)において、用材やしいたけ原木は前年に比べて減少しているが、いずれも燃料材のみ増加。新型コロナウイルス禍で住宅着工は落ち込み、国が拡大を目指す建築向け製材品の需要は振るわないが、バイオマス発電燃料の需要の増加があり、異例の上昇率に【林野庁:2021/09/30、日本経済新聞:2021/10/07】
<https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kikaku/210930.html>

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUC022800S1A001C200000/>

■農水省、「バイオマスの活用をめぐる状況」についての情報を更新し、ホームページで公表。「バイオマス活用推進基本法制定後の推移」や「バイオマス活用推進基本計画の進捗状況」、「バイオマス利用技術の現状とロードマップ」、全国でバイオマス利用に取り組む自治体の事例集等が下記サイトより閲覧可【農水省：2021/9月】

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/#meguij>

■ヤンマーエネルギーシステム（株）（大阪、以下「YES」）、トータルエネルギーソリューションにより「琵琶湖カントリー倶楽部」（滋賀、以下「BCC」）においてゴルフ場として日本初のカーボンニュートラル実現。木質チップを燃料とするバイオマスボイラの熱エネルギーや太陽光発電で発電した電気等、館内の熱エネルギーは全てエネルギーマネジメントシステム（Y-EMS）で最適制御するなどし、ゴルフ場内で発生するCO₂排出量を約300t削減。また新設非FIT電源を中心とした再生可能エネルギー電気料金メニュー『D-Green Premium』を大阪ガス（株）（代理店：Daigas エナジー（株）〔大阪〕）とYESが契約し、再生可能エネルギー100%のグリーン電力を調達。芝刈り機の燃料やガスボイラなどで発生したCO₂はJ-クレジットを購入。これら全てをYESが一括して需要家とエネルギーサービス契約するかたちで、BCC内の年間CO₂排出量約800tを相殺【ヤンマーホールディングス（株）：2021/10/01】

<https://www.yanmar.com/jp/energy/news/2021/10/01/98022.html>

■イーレックス（株）（東京）、ベトナム国バイオマス発電事業に出資参画へ。国営ベトナム電力総公社（EVN）傘下の Power Engineering Consulting Joint Stock Company2（出資比率10%）、Son My Renewable Energy Joint Stock Company（同29%）および地元の燃料供給会社（同10%）と共に、同国ハウジャン省で「ハウザンバイオマス発電所」の建設、運営をするために設立された事業会社 Hau Giang Bio Energy 社に出資参画する。イーレックス初の海外バイオマス発電事業への出資参画となり、同社の出資比率は51%。発電所はもみ殻（約13万t/年）を燃料とし、発電出力20MW（年間発電量は一般家庭約93,000世帯分）、発電した電力はベトナムのFITスキームに則り売電する。

2022年夏頃着工し、2024年秋頃商用運転開始予定。イーレックスは同国政府の応援の下、バイオマス燃料（ニューソルガム）の大々的な開発及び栽培を進めており、燃料事業にバイオマス発電事業をもって本格的に参画をすることとなる。今後成長が見込まれるベトナム国での更なるバイオマス発電所建設計画も検討し、発電事業拡大を目指していく【イーレックス（株）：2021/10/01】

<https://www.erec.co.jp/news/pressrelease/1649/>

■石油資源開発（株）（東京）、北海道網走市の能取工業団地内で開発中の、網走バイオマス発電所2号機、同3号機からなるバイオマス発電プロジェクト参画へ。同プロジェクトは、（株）WIND-SMILE（東京、以下「WS社」）が計画を立ち上げ、現在はWS社が設立した特別目的会社（SPC）である合同会社網走バイオマス第2発電所（北海道）と合同会社網走バイオマス第3発電所（同）を事業主体として建設作業が進められている。石油資源開発は、2号機と3号機の開発の進捗に伴い、参画企業の追加を検討していたWS社と、目指す方向性が一致したことでプロジェクトに参画。9月30日付出资日期により参画手続きを完了。両発電所共、出力規模は9,900kW。北海道産の国内材木質チップを燃料に使用する。発電した電気はFITを通じて北海道電力ネットワーク（株）（北海道）に売電。2号機は2022年5月、3号機は2022年12月営業運転開始予定【石油資源開発（株）：2021/10/01】

https://www.japex.co.jp/news/detail/20211001_01/

■環境省の環境調和型バイオマス資源活用モデル事業として運用されていた「富士山朝霧バイオマスプラント」（静岡県富士宮市）が、民間事業としての本格稼働に向けた試験運転を開始（10月1日）。同プラントは地域内の家畜ふん尿や食品残さ等のメタン発酵にて生じた消化液を下水処理施設で適正に処理しつつ、メタンを活用したバイオマス発電で得られた電力・熱を下水処理施設等に供給し、低炭素社会と循環型社会を同時達成する処理モデルの構築を目指して建設された施設。2019年8月末に実証実験終了後は競売物件となり、2020年12月に（株）土谷特殊農機具製作所（北海道）が取得し、その後（株）タカラレーベン（東京）が共同出資して合同会社「富士山朝霧Biomass」を設立。モデル事業開始時の代表事業者であった富士開拓農業協同組合（静岡）も業務支援で参画し、新たに民間事業として再稼働することになった。プラントでは畜産農家が持

ち込んだ乳牛ふん尿を発酵させ、メタンガスを使って発電。合同会社は地元の新電力会社富士山エナジー（株）と電力供給買取協定を調印。富士山エナジーを通じて地域の一般家庭などに電力を届けていく。処理の過程で生じる消化液は、肥料として畜産農家らに販売する。本格稼働は来年1月頃の予定で、FIT売電は来年6～7月頃開始予定【あなたの静岡新聞:2021/10/02、環境省:2018/02/13】

<https://www.at-s.com/news/article/shizuoka/966848.html>

<https://www.env.go.jp/press/105132.html>

■JAG 国際エナジー（株）（東京）、今年12月で稼働を停止する王子マテリア（株）名寄工場（北海道名寄市）の跡地に木質バイオマス発電事業を検討していることを明らかに。王子マテリアは2019年10月、段ボール原紙等を生産する名寄工場を閉鎖すると発表。名寄市を含む道北地域への経済的影響が大きいため、市と名寄商工会議所などが緊急対策本部を設置。工場敷地の活用案の一つとして、木質バイオマス発電を軸とした再生可能エネルギー事業が出ていた。発電所はJAG国際エナジー等が出資して設立する「名寄バイオマス発電合同会社（仮称）」が運営し、出力は1万kW。工場敷地22haのうち2haを王子側から借りる方向で交渉中。燃料は王子木材緑化（株）（東京）から北海道産の木材チップを10万t/年仕入れる【北海道新聞:2021/10/02、北海道建設新聞社:2020/11/26】

<https://www.hokkaido-np.co.jp/article/595595>

<https://e-kensin.net/news/132847.html>

■岡山県真庭市の観光文化発信拠点施設「グリーンブルヒルゼン」で、電源が再生可能資源の電動マウンテンバイク（e-MTB）を貸し出すレンタサイクル事業。「グリーンブル」は自然を象徴する「グリーン」と持続可能を意味する「サステナブル」を合わせた造語で、この施設は真庭市が観光文化発信拠点として7月15日にオープンした。米TREK社製「e-bike Powerfly5」をレンタルできるサイクリングセンターは施設内にあり、e-MTBを含む施設内の電力は、真庭市や地元企業が事業主体となつてつくる「真庭バイオマス発電（株）」が供給。真庭バイオマス発電は、2015年4月より稼働するバイオマス発電所（出力10,000kW）で地元産ヒノキの端材や間伐材などをチップ化して燃料とするバイオマス発電を行っている【産経新聞:2021/10/04】

<https://www.sankei.com/article/20211004->

[BCXVTF62A5KXJA4XCL76M6AK5Q/](https://www.sankei.com/article/20211004-BCXVTF62A5KXJA4XCL76M6AK5Q/)

■大東建託（株）（東京）、11月1日より同社グループ本社ビルで東京都港区にある「品川イーストワンタワー」で使用する電力に対し、再生可能エネルギーの導入を開始。間伐材などの未利用材や製材端材、建設廃材を燃料とする、ミツウロコグリーンエネルギー（株）（東京）100%子会社の（株）ミツウロコ岩国発電所（山口、出力10,500kW）から供給を受ける。これにより、電力利用に由来する年間CO₂排出量は、同社グループで約1,600t、入居テナント企業で約5,400t削減できる見込み【大東建託(株):2021/10/05、ミツウロコグリーンエネルギー(株)】

https://www.kentaku.co.jp/corporate/pr/info/2021/saiene_1004.html

<https://www.mitsuurokogreenenergy.com/company/plant/iwaku.html>

■テス・エンジニアリング（株）（大阪）、熊本県球磨郡錦町で行う木質バイオマス発電事業の発電所建設工事開始にあたり、起工式を実施（10月4日）。発電所名は「TESS 錦町木上西バイオマス発電所」。使用燃料は未利用間伐材（丸太・林地残材・パーク）等の木質チップ。発電出力は1.99MW、年間予想発電量は約1,300万kWh（一般家庭約4,300世帯分）。FITを通じて九州電力送配電（株）（福岡）に売電する。事業主体は同社連結子会社の合同会社熊本錦グリーンパワー（大阪）。9月末にはシーメンス・エナジー（株）（東京）が、テス・エンジニアリングと熊本錦グリーンパワー向け蒸気タービン、発電機、周辺機器を提供する受注契約を交わしている。発電事業は2023年7月開始予定【テス・エンジニアリング（株）:2021/10/06、日本経済新聞:2021/09/27】

<https://www.tess-eng.co.jp/news/20211006.html>

https://www.nikkei.com/article/DGXLRS618398_X20C21A900000/

■大分県竹田市、市内直入町の市有地に予定していたバイオマス発電施設の整備計画が白紙になったことを明らかに（10月5日）。事業を担う新東実業（株）（東京）に詳細な計画書の提出や地元住民の同意などについて説明を求めたが、期限までに返答がなく、交渉相手として不相当と判断【大分合同新聞:2021/10/06】

<https://www.oita->

press.co.jp/1010000000/2021/10/06/JD0060689044

■昭和 20～30 年代に青森県西目屋村の一大産業だったが、時代の流れとともに消滅した「目屋炭」が復活。数少ない伝承を頼りに村は新たに炭窯を建て、(株)森のエネルギー研究所(東京)グループ会社の西目屋薪エネルギー(株)(青森)とともに炭焼きの技術を 1 年かけて確立。ナラとカエデが原料の目屋炭は質が密で堅く、長く燃え続けるのが特徴。製法は火入れ後に窯から出し、砂などをかけて火を消す「白炭」で、高級品で知られる備長炭と同じ。道の駅津軽白神ビーチにしめやで 10 月 6 日販売開始。パーベキューなどに使う家庭用が 2kg500 円、プロ仕様の上質品は 1 箱(4kg) 4,000 円。同社ホームページでの販売を 11 月頃開始し、村のふるさと納税返礼品にも同月頃に加える予定【陸奥新報：2021/10/06】

<http://www.mutusinpou.co.jp/news/2021/10/67159.html>

■薪ストーブを製造する(株)モキ製作所(長野)が、薪ストーブの主力商品を刷新。刷新した薪ストーブは「MD140Ⅲ」で、同社の旗艦モデル。窓ガラスの面積を従来より 8 割ほど拡大したほか、炎がよりきれいに見えるようガラス自体も曇りづらくした。外観はシンプルでモダンなデザインに仕上げ、若年層を含めた幅広い顧客層の開拓を目指す。価格は 49 万 5,000 円【日本経済新聞：2021/10/06】

<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOCC067HT0W1A001C2000000/>

■木材のリサイクルに取り組む滋賀県米原市のヤマムログループ、廃木材からバイオマス発電の燃料や紙製品などを製造。木材のリサイクル率 100%を達成。同グループの「山室木材工業(株)」はもともとパレットの製造・販売がメインだったが、「使い古したパレットがいなくなった」という取引先からの相談がきっかけでティッシュペーパーやノートなど紙製品の材料となる「製紙用チップ」の製造に着手。その後、「燃料チップ」や建材などに使われる「ボード用チップ」も誕生。竹や生木、不要になった家具だけでなく米原市と協定を結び、空き家解体の際に出る廃木材や災害時の木質廃棄物も回収し、木製チップとして再利用している。燃料チップは同グループのバイオマス発電所や木製品を乾燥させるボイラ等のエネルギー源としても利用。チップボイラが入った温室ハウスでマンゴー(ブランド名「みつなり」)も栽培。今夏は約千個のマンゴーを収穫

し、地元の新たな名産品を目指している。イチゴも栽培しており、同グループが運営する同市内の菓子店「ドラジェ」でケーキなどのスイーツとして販売【産経新聞：2021/10/08、山室木材工業(株)】

<https://www.sankei.com/article/20211008-NB6XOKAGSNPFVLISOUXGVVWATQ/>

<https://www.yama-muro.co.jp/agriculture/>

■(株)タクマ(兵庫)と日本製紙(株)(東京)が、NEDO の委託事業「CCUS 研究開発・実証関連事業/CCUS 技術に関連する調査/CO₂ 大量排出源からの CO₂ 分離・回収、集約利用に関する技術調査事業」を受託。日本製紙と双日(株)(東京)の合併事業である勇払エネルギーセンター合同会社(北海道)の「勇払バイオマス発電所」(2023 年 1 月運開予定)を対象モデルとし、バイオマス発電施設での省エネルギー型 CO₂ 分離回収技術および集約技術の検討、さらに事業化の課題調査を行う。調査期間は 2021 年 8 月～2023 年 2 月まで。勇払バイオマス発電所の発電規模は 74,950kW、燃料には輸入木質チップ、PKS、国内未利用材を使用。発電した電力は FIT を活用し北海道電力(株)(北海道)に販売される予定。タクマは五洋建設(株)(東京)と共同で発電設備の納品から施設の施工までを担当しており、その豊富な実績と技術、ノウハウを活用して今回の課題調査を行う【(株)タクマ：2021/10/11、2019/06/14】

<https://www.takuma.co.jp/news/2021/20211011.html>

<https://www.takuma.co.jp/news/2019/20190614.html>

■ENEOS ホールディングス(株)(東京)、子会社の ENEOS(株)(東京)がジャパン・リニューアブル・エナジー(株)(東京、以下「JRE」)の株式取得(連結子会社の異動を伴う孫会社化)を決定したと発表(10 月 11 日)。JRE は太陽光や陸上風力、バイオマスと再生エネ電源を多く持つほか、政府が本格導入を目指す洋上風力も事業化に向けた検討に取り組んでおり、その株式はゴールドマン・サックス(米国、以下、「GS」)のアセット・マネジメント部門が運用するインフラファンド及びシンガポール政府投資公社の関連会社(以下、「GIC」)が間接的に保有している。ENEOS グループは、2040 年に同社排出分の CO₂ についてカーボンニュートラル達成、また第 2 次中期経営計画の 3 力年の最終年度となる 2022 年度末までに、国内外における再生可能エネルギー事業の総発電容量を 100 万 kW 超に拡大することを目標とし、その後もさらなる容量の積み上げを目指して

いる。ENEOS の再生エネの発電容量は、建設中を含めると国内外で 51.4 万 kW。JRE は 70.8 万 kW で、今回の買収で一挙に約 122 万 kW (2021 年 9 月時点) となる。JRE 全株式の取得価額は概算で 2,000 億円。株式譲渡は 2022 年 1 月下旬頃の予定【ENEOS ホールディングス (株) : 2021/10/11、ITmedia エグゼクティブ : 2021/10/21】

https://www.hd.eneos.co.jp/newsrelease/upload_pdf/20211011_01_01_0960492.pdf

<https://mag.executive.itmedia.co.jp/executive/articles/2110/21/news071.html>

■日本貨物鉄道 (株) (東京、以下「JR 貨物」と (株) ユーグレナ (東京)、JR 貨物越谷貨物ターミナル駅においてユーグレナ社が製造・販売する次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」を使用することで合意。10 月 1 日より同駅構内のコンテナ移送トラックにおいて使用を開始したと発表。「サステオ」は使用済み食用油とユーグレナを原料として製造されている。調達量は 2,388t/年。今後はトラックだけでなく、フォークリフトや機関車への使用拡大や、他の貨物駅での使用を検討する【LNEWS : 2021/10/13】

<https://www.lnews.jp/2021/10/n1013308.html>

■林野庁、「モクレポ～林産物に関するマンスリーレポート～」の発行開始。木材需給、木材価格、木材産業の動向などに関するデータを集約・整理し、毎月定期的に公表していく。既に発行している「令和 3 年 9 月創刊準備号」では 5 年ごとに調査を行っている「農林業センサス」(令和 3 年 4 月 27 日公表) の調査結果の概要等の特集。令和 3 年 10 月創刊号特集記事は「我が国の木材の需要量と供給量を示す令和 2 年木材需給表の概要」や「建築物に利用した木材に係る炭素貯蔵量をわかりやすく表示するためのガイドライン」についてとりあげている【林野庁 : 2021/10/15】

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/toukei/monthlyreport.htm>

2. ペレット関連情報

■テス・エンジニアリング (株) (大阪) 北海道バイオマスエネルギー (株) (北海道) が運営する「当別森林バイオマス熱電併給施設 (北海道当別町)」にバイオマス発電システムを納入 (納入時期は 2021 年 5 月)。納入したのは独 Burkhardt 社製の熱電

!

■東邦ガス (株) (愛知) が中部日本放送 (株) (同)、(株) 鈴鍵 (同) とともに地元愛知のゴルフ場でバイオマスエネルギー利用。事業サイトは愛知県豊田市にある (株) 南山カントリークラブの敷地。10 月 14 日付で事業化に向けた協業に関する協定を締結したと公表。南山カントリークラブ内の未利用材を燃料の一部として有効活用することを念頭に、2024 年度中の事業化を目指し検討を進めていく。発電出力は非公表【OSR NO.488 : 2021/10/20、PR TIMES : 2021/10/14】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000730.000015357.html>

■(一財) 地球・人間環境フォーラム (東京) ら、日韓 NGO が「バイオマスに関する日韓 NGO 声明」を発表。バイオマスエネルギーの大量使用問題に関して世界中の環境団体が立ち上がる「ビッグバイオマス国際行動デー」と位置付けた 10 月 21 日に実施。日本と韓国で共通するバイオマスエネルギーに関わる問題を懸念する地球・人間環境フォーラムや NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク (千葉)、Solution for Our Climate (韓国) と米 NGO マイティ・アースが国際メディアブリーフィングを開催。「全ての再生可能エネルギーがパリ協定の 1.5 度目標と整合し、そのライフサイクルを通じて、短期的な排出削減に貢献することを義務付ける。」「発電のみの木質バイオマス発電所の新規建設・新規稼働を直ちに停止する。」といった内容で、日韓両国の首脳宛に提示した【(一財) 地球・人間環境フォーラム : 2021/10/21】

<https://www.gef.or.jp/news/info/korea-japan-biomass-ngo-statement/>

※OSR : バイオマス・再可エネ等の専門情報誌「オンサイト・レポート」の略

併給ユニット ECO 165HG×6 基とガス化ユニット V3.90×6 基。発電出力は 990kW (165kW×6 基)、熱出力は 1,560kW (260kW×6 基) となる。燃料となるペレットは北海道バイオマスエネルギーの第一号プラント「下川発電所 (北海道下川町)」にて、

北海道内で調達した未利用間伐材から製造したもの。北海道バイオマスエネルギーは、15,000 t /年以上のペレットを製造し、下川、当別の両発電所で利用している【テス・エンジニアリング(株)：2021/09/09、北海道バイオマスエネルギー(株)】

<https://www.tess-eng.co.jp/case/cogene/tobetsu-hokkaido.html>

<https://h-bio.co.jp/>

■(株)JCサービス(大阪)、9月9日に東京地裁から民事再生廃止決定を受け、破産手続き移行へ。同社は太陽光発電システムの開発やバイオマス発電開発などを手掛け、2016年11月期は売上高62億1,605万円をあげていた。2016年5月からは、タイにある現地工場で、廃棄されていたゴムの木を高品質ペレットに加工。日本に輸出し、国内のバイオマス発電所で活用するプロジェクトにも着手していた。同社は今年5月27日に東京地裁から民事再生開始決定を受けていたが、その後新規受注もなく、開発途中の案件の換価・回収を進めるうえで、事業継続による人件費などのコストを勘案すると破産手続きの移行が適切と判断された。負債総額は債権者158名に対して153億4,285万円(民事再生開始決定時)【Yahoo! Japan、(株)JCサービス：2021/09/22】

<https://news.yahoo.co.jp/articles/38f21ca8bce2b020a8f4bcc1267e13c4e936cc6f>

<https://jcservice.co.jp/>

■東洋エンジニアリング(株)(千葉、以下「TOYO」と日鉄エンジニアリング(株)(東京、以下「NSE」)による共同企業体が、合同会社唐津バイオマスエナジー(東京)が佐賀県唐津市に計画する49,900kWのバイオマス発電所建設プロジェクトを受注。同プロジェクトは木質ペレットとPKSを燃料とするバイオマス専焼発電設備を建設するもので、同共同企業体は発電設備一式の設計、機器資材調達、建設工事、試運転までのEPC業務を一括請負で実施する。TOYOにとっては現在建設中の6件の50MW級及び2件の75MW級バイオマス発電所に続き、9件目のプロジェクト、NSEにとっては本年6月に運転を開始した苅田バイオマス発電所(75MW級、福岡県苅田町)も含め、バイオマス発電所建設プロジェクトの受注は4件目。二社の共同プロジェクトとしては今回二件目の受注となる。発電所は2024年完成予定【東洋エンジニアリング(株)：2021/09/28】

<https://www.toyo-eng.com/jp/ja/company/news/?n=824>

■宮崎県児湯郡都農町に『まちづくり Hostel ALA』がオープン！多くの地域を悩ませる高齢化、若者流出、空き家といった問題を解決すべく、同町に拠点を構える(株)イツノマが、「働く」「学ぶ」を楽しむ町内外の人たちとまちづくりを共に学び、実践する拠点として9月13日に開業した。約5,000㎡の畑(耕作放棄地)と2軒の空き家を再生し、畑を大切にす町への敬意を表しフィンランド語で畑を表した「ALA」と名付けている。施設は Hostel棟とハウス棟の2つに分かれ、施設内には、都農ペレット工業(株)(宮崎)の木質ペレット燃料を採用したペレットストーブや、生ゴミを堆肥に変えるコンポストを完備。オーガニックタオル、竹歯ブラシのレンタル販売をするなど、環境へ配慮した Hostelを目指す【Livhub：2021/09/28】

<https://livhub.jp/news/local/hostel-ala-open.html>

■シン・エナジー(株)(兵庫)、宮崎県串間市にある串間市民病院に木質ペレットガス化熱電併給設備(以下、木質ペレットガス化 CHP)及び、木質ペレットバイオマス蒸気ボイラを導入。同市における地域の防災・減災と低炭素化を同時実現する自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業として実施。燃料のペレットは、同社が出資・運営サポートを行うくしま木質バイオマス(株)(同市)の大生黒潮発電所で生産される100%地域材の木質ペレットで賄う。木質ペレットガス化 CHP はエントレンコ社(ドイツ)製で、定格発電出力50kW分は全量自家消費する。定格熱出力は120kW。災害時には自立運転によるエネルギー供給が可能。九州オリンピア工業(株)(宮崎)製蒸気ボイラの蒸気量は500kg/hで殺菌用として利用。熱出力は313kWでガス化 CHP の分と同じく温水を施設内に供給し、空調及び給湯に利用する。これまで温水と蒸気に138kℓ/年の灯油を使用していたのを100%木質ペレットに代替することができ、施設の年間CO₂排出量の50%にあたる約520tを削減できる見込み【シン・エナジー(株)：2021/10/02】

<https://www.symenergy.co.jp/news/20211001-6608.html>

■(株)沖縄銀行(沖縄)、沖縄電力(株)(同)が提供する「うちな～CO₂フリーメニュー」を、同行本店ビルに導入。「うちな～CO₂フリーメニュー」は、太陽光や風力といった沖縄の自然の力を利用した発電や、沖縄県内で発生した建築廃材などを有効活用した木質ペレットの混焼によるバイオマス発電など、沖縄県内の資源に由来する非化石証書を使用した、地産地消型のCO₂フリーメニュー。同行と沖縄電力は9月10日に「脱炭素

社会の実現に向けた包括連携に関する協定書」を締結しており、今回の導入は連携項目の一つである「環境負荷の低減に配慮したエネルギーの導入拡大および転換促進に関すること」の具体的取組みの一つとなる。10月1日から導入を開始しており、同メニューの適用により、885t-CO₂/年削減できる見込み【(株) 沖縄銀行：2021/10/04】

https://www.okinawa-bank.co.jp/news_release/2021100100030/

■繊維二次製品の製造販売を手掛ける(株)ナカノアパレル(東京)が、ベトナムの北中部地方ゲアン省ビン市にある新規工業区域でベトナム新工場を建設へ。総敷地面積 6,500 m²の敷地内に建設し、太陽光パネルや、木質ペレットを燃料とするバイオマスボイラの導入による蒸気用ボイラ設備などを完備。電力の100%自給自足化を目指す。自然環境に配慮したクリーンな工場「サステナブル縫製工場」を世界へ向けて発信していく。2022年10月操業開始予定【VIET JO：2021/10/05】

<https://www.viet-jo.com/news/nikkei/211004184316.html>

■Enviva Partners, LP (USA、以下「エンビバ」)の木質ペレットの安定供給を支える新造ドライバルク貨物船「Ocean Virginia号」が竣工。愛媛県今治市で開催された新造貨物船の命名・受渡式において、今治造船(株)(愛媛)をはじめとする関係者から、エンビバが本船の名付け親となる栄誉を受け、エンビバの事業地のひとつであり木質ペレットの出荷拠点のチェサピーク港を擁するアメリカ南部バージニア州に因んで命名した。Ocean Virginia号は今治造船の本社所在地である愛媛県今治市にあるしまなみ造船(株)(愛媛)で建造。全長180m、全幅29.8m、載貨重量約38,000tのバルクキャリア。エンビバの木質ペレットを含む様々な乾貨物を運ぶために建造され、第一中央汽船(株)(東京)によって運航される。エンビバは木質ペレットを米国の南東部から主にイギリス、欧州、カリブ地域、日本に輸出しており、第一中央汽船と日本への木質ペレット輸送を長期的に行うことを可能にする長期傭船契約(COA)を締結している【PR TIMES：2021/10/07】

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000072343.html>

■経産省、10月8日に「第12回総合資源エネルギー調査会省エネルギー・新エネルギー分科会 新エネルギー小委員会 バ

イオマス持続可能性ワーキンググループ」をオンラインで開催。議題は①バイオマス発電のライフサイクル GHG について、と②バイオマス発電のライフサイクル GHG に係る業界団体ヒアリングとなっており、業界団体として(一社)バイオマス発電事業者協会(東京、以下「BPA」)や(一社)日本木質バイオマスエネルギー協会(東京、以下「JWBA」)等が参加。今年6月30日開催の第10回WGでライフサイクルGHGについて発電事業者から試算結果を収集の上、更に検討を進める、とされたことから、BPAはEFBペレットやくるみ殻ペレット、アーモンド殻ペレット等様々な新規燃料、および木質ペレットやチップ、PKSといった既存燃料についての詳細な試算結果を提示。JWBAは「国産材を活用した木質バイオマス発電におけるGHG排出量の試算について」と題した資料を提示した。各資料等については下記サイトを参照【経産省：2021/10/08】

https://www.meti.go.jp/shingikai/enecho/shoene_shinene/shin_energy/biomass_sus_wg/012.html

■(株)新越ワークス(新潟)、新ブランド「warmArts(ウォームアーツ)」のペレットストーブ展示場を9月にオープン。warmArtsは新越ワークスが今年1月、(株)さいかい産業のペレットストーブ事業を引き継いで立ち上げたブランド名。展示場は新潟県燕市の新越ワークスのエネルギー事業部の建物内に開いた。実際にペレットストーブに火を入れて暖かさなどを体感できるほか、ペレットストーブが組み立てられる様子も見られるとのこと【日本経済新聞：2021/10/08、にいがた経済新聞：2021/09/18】

https://www.nikkei.com/nkd/industry/article/?DisplayType=1&n_code=026&ng=DGXZQCC075EN0X01C21A0000000

<https://www.nikkei.jp/205371/>

■インド電力省が、石炭火力発電でのバイオマスペレットの利用に関する政策を改定すると発表(10月8日)。従来の政策でも発電所にバイオマスペレットの混焼を「勧告」のレベルで求めていたが、農業廃棄物の利用推進を目的に5%の混焼を義務化する【NNA ASIA：2021/10/11】

<https://www.nna.jp/news/show/2248417>

■林野庁が8月31日に公表した昨年(2020年)の木質ペレットに関する調査結果によると、国産ペレットの生産工場数は前年比10工場減の137に。生産量は前年比1.0%増の14万8,726

t となった。原料は丸太・林地残材が 7.8 万 t(構成比 52.3%)、製材工場等残材が 5.1 万 t(構成比 34.3%)、建設発生木材が 1.8 万 t(構成比 12.4%)。原料の丸太・林地残材の樹種別の内訳は、スギが 62.5%、マツが 26.6%、ヒノキが 9.2%となった。一方輸入ペレット量は同 25.7%増の 202 万 8,000 t となり、ペレットの自給率は前年の 8.4%から 6.8%に下落。主にベトナムからの輸入が増加しており、タイ、マレーシアからの輸入も増加傾向

【日本林業調査会：2021/10/13、林野庁】

<https://www.j->

[fic.com/%e6%9c%a8%e8%b3%aa%e3%83%9a%e3%83%ac%e3%83%83%e3%83%88%e3%81%ae%e8%87%aa%e7%b5%a6%e7%8e%87%e3%81%8c6-8%ef%bc%85%e3%81%b8%e3%81%95%e3%82%89%e3%81%ab%e4%bd%8e%e4%b8%8b/
https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/biomass/w_pellet.html](https://www.rinya.maff.go.jp/j/riyou/biomass/w_pellet.html)

3. イベント情報 (国内)

※本メールニュースに掲載のイベントは情報として紹介しているもので、参加を推奨するものではありません。

※新型コロナウイルスの影響により、イベント、展示会で急遽中止や延期を決定される場合があります。開催の有無については各ウェブサイト等で最新情報を確認するようにしてください。

◎：木質ペレット燃料、ストーブ、ボイラの関連イベント

■16th メッセナゴヤ 2021 (オンライン開催)

2021 年 11 月 1 日 (月) ~ 19 日 (金)

オンライン (メッセナゴヤ WEB サイト内)

<http://www.messenagoya.jp/>

■NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク (BIN) 第 200 回研究会「2050 年に向けた持続可能なバイオマス利用とは」

2021 年 11 月 6 日 (土)

オンライン

<https://www.npobin.net/activity/seminar.html>

■東京都環境局「都民を対象としたテーマ別環境学習講座

【第 2 回】『里山資本主義 幸せの経済と私達の未来』

2021 年 11 月 6 日 (土)

Zoom Webinar によるオンライン開催

<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/hodohappyo/press/2021/09/28/11.html>

◎ペレットストーブの店 iedan「第 4 回あったかフェスティバル 感暖祭」

2021 年 11 月 6 日 (土) ~ 7 日 (日)

(株) 丸柘銘木センター内ペレットストーブの店 iedan- イエダン - (栃木県小山市)

<https://iedan.jp/>

■林業経済学会主催、環境社会学会・福島林業研究会共催合同シンポジウム「多様な森林利用への放射能汚染の影響と地域社会」

2021 年 11 月 7 日 (日)

オンライン

http://www.jfes.org/kenkyukai/cooperative_symposium_2021/2021_cooperative_symposium.html

■J-FIC (日本林業調査会)『『森林を活かす自治体戦略』の著者と考える 市町村森林行政のこれから』

2021 年 11 月 8 日 (月)

オンライン

<https://j-fic-event01.peatix.com/>

■(一社) 緑の循環認証会議 SGEC/PEFC ジャパン 森林認証国際フォーラム 2021「SDGs に貢献する森林認証～森林認証の役割～」

2021 年 11 月 9 日 (火)

永田町ビル大会議室 (東京都千代田区) / オンラインによる参加

<https://sgec->

[pefcj.jp/2021/09/17/%E6%A3%AE%E6%9E%97%E8%AA%8D%E8%A8%BC%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%BC%E3%83%A9%E3%83%A02021/](https://www.pefcj.jp/2021/09/17/%E6%A3%AE%E6%9E%97%E8%AA%8D%E8%A8%BC%E5%9B%BD%E9%9A%9B%E3%83%95%E3%82%A9%E3%83%BC%E3%83%A9%E3%83%A02021/)

■16th メッセナゴヤ 2021（リアル開催）

2021年11月10日（水）～13日（土）

ポートメッセなごや（愛知県名古屋市）

<http://www.messenagoya.jp/>

■（国研）森林研究・整備機構森林総合研究所 令和3年度

「材料・空間の感性・快適性評価に関する産学連携セミナー」

【第2回】2021年11月12日（金）

インターネットによるリモート参加とYouTube「森林総研チャンネル」ライブ配信

<http://www.ffpri.affrc.go.jp/event/2021/20211015seminar/index.html>

■福島林業研究会「2021年福島林業研究会シンポジウム『少し視点を変えて福島の林業のあり方を考える』」

2021年11月13日（土）

ZOOMによるオンライン配信、事前登録制

<https://www.forestry.jp/others/others-mtg/2021r31113.html>

■林野庁「福島の森林・林業再生に向けたシンポジウム～福島の森と木の親子体験オンライン教室2021～」

2021年11月13日（土）

オンライン

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kaihatu/210910.html>

■上智大学 国際シンポジウム「ヨーロッパ・日本を結ぶオンライン・ソフィアシンポジウム 文化的森林生態系サービスの重要性を国際的な視点で探る～新しい森林関連のビジネスチャンスに向けて？」

2021年11月15日（月）

オンライン

<https://innofesweb.wixsite.com/innofes/about-9?lang=ja>

■飛騨市、（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所「地域再生シンポジウム2021 in 飛騨『広葉樹活用による地域再生～いま地域に求められること～』」

・シンポジウム：2021年11月16日（火）

飛騨市文化交流センター（岐阜県飛騨市）

・エクスカージョン：2021年11月17日（水）

岐阜県内

<https://www.city.hida.gifu.jp/soshiki/20/35248.html>

■川崎国際環境技術展実行委員会「第14回川崎国際環境技術展」

2021年11月16日（火）～26日（金）

オンライン開催

<https://www.kawasaki-eco-tech.jp/>

■（一社）滋賀グリーン活動ネットワーク（SGN）「グリーン経済フォーラム2021 滋賀からエネルギー転換と脱炭素を考える～『CO2ネットゼロ社会』を目指して～」

2021年11月17日（水）

Zoom利用のオンライン・セミナー

<https://www.shigagpn.gr.jp/news/151>

◎RX Japan（株）スマートエネルギーWeek内「第6回バイオマス展【関西展】」

2021年11月17日（水）～11月19日（金）

インテックス大阪（大阪府大阪市）

<https://www.bm-expo.jp/ja-jp.html>

■（株）新社会システム総合研究所「カーボンプライシングの内外状況と国内展望～制度設計の方向性～」

2021年11月18日（木）

SSK セミナールーム（東京都港区）/ライブ配信/アーカイブ配信

<https://www.ssk21.co.jp/S0000103.php?gpage=21437>

■応用森林学会「第72回応用森林学会大会」

2021年11月20日（土）～22日（月）

オンライン開催

<http://applforsci.jp/>

◎（一社）日本能率協会「バイオマスエキスポ2021」

2021年11月24日（水）～26日（金）

東京ビッグサイト青海展示棟（東京都江東区）

<https://www.biomassexpo.info/>

■（一社）日本能率協会「バイオマスエキスポフォーラム’21」

2021年11月26日（金）

東京ビッグサイト青海展示棟内セミナー会場（東京都江東区）

<https://www.biomassexpo.info/>

■林業経済学会「林業経済学会2021年秋季大会」

2021年12月1日（水）～10日（金）

※口頭発表は12月4日（土）～5日（日）

オンライン開催

http://www.jfes.org/kenkyukai/JFES_2021_Fall/2021_fall.html

■第23回エコプロ2021

2021年12月8日（水）～10日（金）

東京ビッグサイト東ホール（東京都江東区）

<https://eco-pro.com/eco2021/>

■（特非）日本環境倶楽部 “25周年記念事業（その2）”ゼロカーボン達成研究セミナー第3回

「国連気候変動枠組条約第26回締約国会議（COP26）の結果について」

2021年12月17日（金）

ZOOMによるリモート形式

<https://www.kankyoclub.or.jp/event/2112-1.html>

■（一社）日本エネルギー学会バイオマス部会「第17回バイオマス科学会議」

2022年1月19日（水）～20日（木）

オンライン開催

<https://www.jie.or.jp/publics/index/810/>

■日本エネルギー学会バイオマス部会「第9回アジアバイオマス科学会議」

2022年1月21日（金）

オンライン会議（Zoom）

<https://www.jie.or.jp/publics/index/805/>

■再生可能エネルギー協議会「第16回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム」

2022年1月26日（水）～28日（金）

東京ビッグサイト東4・5ホール&会議棟（東京都江東区）

<https://www.low-cf.jp/east/index.html>

■（一財）省エネルギーセンター「ENEX2022 第46回地球環境とエネルギーの調和展」

2022年1月26日（水）～28日（金）

東京ビッグサイト東4・5ホール&会議棟（東京都江東区）

<https://www.low-cf.jp/east/index.html>

■JTBコミュニケーションデザイン「DER Microgrid Japan 2022」

2022年1月26日（水）～28日（金）

東京ビッグサイト東4・5ホール&会議棟（東京都江東区）

<https://www.low-cf.jp/east/index.html>

◎RX Japan（株）「スマートエネルギーWeek内バイオマス展」【春展】

2022年3月16日（水）～18日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.bm-expo.jp/ja-jp.html>

■（一社）日本森林学会「第133回日本森林学会大会」

2022年3月27日（日）～29日（火）

オンライン開催（公開シンポジウムは山形市で開催）

<https://www.forestry.jp/>

■日報ビジネス（株）「第31回2022NEW環境展」、「第14回2022地球温暖化防止展」

2022年5月25日（水）～27日（金）

東京ビッグサイト（東京都江東区）

<https://www.n-expo.jp/>

4. イベント情報 (海外)

■COP26

2021年10月31日(日)～11月12日(金)

グラスゴー (UK)

<https://ukcop26.org/>

■Bringing Value to Agrobiomass - Matchmaking

2021年11月3日(水)～4日(木)

オンライン

<https://bringing-value-to-agrobiomass-2.b2match.io/page-4221>

■2021 Value of Biogas West Conference

2021年11月9日(火)～10日(水)

ブリティッシュコロンビア州バンクーバー (カナダ)

<https://biogasassociation.ca/vob2022/page/vobwest2021>

■Sustainable Bioenergy at the Heart of Net Zero

2021年11月9日(火)～10日(水)

グラスゴー (UK)

<https://sustainablebioenergy.org/>

■Argus Biofuels Europe and Asia Markets

2021年11月9日(火)～11日(木)

バーチャル会議

https://www.argusmedia.com/en/conferences-events-listing/biofuels-live?utm_source=conf-partner&utm_medium=listing&utm_content=event&utm_term=bio&utm_campaign=EUAF-EVC-2021-11-BIO-Biofuels-Live-2021-WBA-listing

◎European Biomass to Power Conference 2021

2021年11月17日(木)～18日(金)

マンチェスター (UK)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/european-biomass-to-power/>

■31st BIOGAS Convention & Trade Fair

2021年11月22日(月)～26日(金)

デジタル会議

<https://www.biogas-convention.com/en/>

■Future of Biogas Europe Summit 2021

2021年11月24日(水)～25日(木)

ベルリン (ドイツ)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/future-biogas-europe/>

■IEA Bioenergy Triannual Online Conference 2021 “Bioenergy - A critical part of the path to carbon neutrality”

2021年11月29日(月)～12月9日(木)

オンライン

<https://www.ieabioenergyconference2021.org/>

■WOODEX

2021年11月30日(火)～12月3日(金)

モスクワ (ロシア)

<https://woodexpo.ru/Home>

■ BIOGAS Convention & Trade Fair

2021年12月7日(火)～9日(木)

ニュルンベルク (ドイツ)

<https://www.biogas-convention.com/en/>

◎Fuels of the Future 2022

2022年1月24日(月)～25日(火)

ベルリン (ドイツ)

<https://www.fuels-of-the-future.com/en/programme/programme-overview>

■bio360

2022年1月26日(水)～27日(木)

ナンテ (フランス)

<https://www.bio-360.com/en/>

■Lignofuels 2022

2022年2月2日(水)～3日(木)

ヘルシンキ (フィンランド)

<https://www.wplgroup.com/aci/event/lignocellulosic-fuel-conference-europe/>

■World Sustainable Energy Days

2022年3月2日(水)～4日(金)

ヴェルス(オーストリア)

<https://www.wsed.at/european-pellet-conference>

◎European Pellet Conference 2022

2022年3月2日(水)～3日(木)

ヴェルス(オーストリア)

<https://www.wsed.at/european-pellet-conference>

◎6th Biomass Trade & Power Europe

2022年3月2日(水)～3日(木)

コペンハーゲン(デンマーク)/バーチャル

<https://www.cmtevents.com/aboutevent.aspx?ev=220302&>

■15h Annual International Biomass Conference & Expo

2022年3月14日(月)～16日(水)

フロリダ州ジャクソンビル(USA)

<http://www.biomassconference.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Home>

◎The International Biomass Congress & Expo

2022年3月15日(火)～16日(水)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.bioenergy->

[news.com/conference/biomass/biomass_index_2022.php](https://www.bioenergy-news.com/conference/biomass/biomass_index_2022.php)

■The International Biogas Congress & Expo

2022年3月15日(火)～16日(水)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.bioenergy->

[news.com/conference/biogas/biogas_index_2022.php](https://www.bioenergy-news.com/conference/biogas/biogas_index_2022.php)

◎The 13th Biofuels International Conference & Expo

2022年3月15日(火)～16日(水)

ブリュッセル(ベルギー)

<https://www.biofuels->

[news.com/conference/biofuels/biofuels_index_2022.php](https://www.biofuels-news.com/conference/biofuels/biofuels_index_2022.php)

■Bio360 Week

2022年3月22日(火)～26日(土)

バーチャルイベント

<https://public.message->

[business.com/emailing/25115/1807/r16azizyvmpvfjhjzagfbiigjjyzsehhe/emailing.aspx?utm_campaign=Bio360+6&utm_medium=Emailing&utm_source=Sendethic](https://public.message-business.com/emailing/25115/1807/r16azizyvmpvfjhjzagfbiigjjyzsehhe/emailing.aspx?utm_campaign=Bio360+6&utm_medium=Emailing&utm_source=Sendethic)

◎FORST live

2022年4月8日(金)～10日(日)

オッフエンブルク(ドイツ)

<https://www.forst-live.de/en>

■2022 Value of Biogas East Conference

2022年4月12日(火)～13日(水)

オンタリオ州トロント(カナダ)

<https://biogasassociation.ca/vob2022/page/vobeast2022>

■Carrefour International du Bois

2022年6月1日(水)～3日(金)

ナンテ(フランス)

<https://www.timbershow.com/en/>

■Elmia Wood 2022

2022年6月2日(木)～4日(土)

ヴァガリード(スウェーデン)

<https://www.elmia.se/en/wood/>

■Carbon Capture & Storage Summit

2022年6月13日(月)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

http://fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pageld=Carbon_Capture_Storage_Summit

■2022 International Fuel Ethanol Workshop & Expo

2022年6月13日(月)～15日(水)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<http://www.fuelethanolworkshop.com/ema/DisplayPage.aspx?pa>

[geld=Home](#)

■Biodiesel & Renewable Diesel Summit

2022年6月13日(月)～15日(水)

ミネソタ州ミネアポリス(USA)

<http://2022.fuelethanolworkshop.com/Biodiesel.html>

■16th International Conference BIOMASS for ENERGY

2022年9月

キエフ(ウクライナ)

<https://uabioconf.org/en/>

5. 2021年度ペレットストーブ、ボイラ補助金情報(都道府県順)

※締切や公募の条件等の詳細は各自自治体にお問い合わせください。

◇: ストーブ

◆: ストーブ・ボイラ共

【東京都】

◇稲城市「令和3年度稲城市カーボンニュートラル推進住宅設備等導入費補助金」

<http://www.city.inagi.tokyo.jp/smph/kankyo/tikyuuondanka/juutakuyousouenergy/soene.html>

※申請受付期間: 令和4年1月(予定)

【愛知県】

◇豊根村「豊根村ペレットストーブ購入補助金」

http://www.vill.toyone.aichi.jp/gyousei/reiki_int/reiki_honbun/i577RG0000654.html

6. 公募等情報(締切順)

■経産省「地域共生型再生可能エネルギー事業顕彰の令和3年度第2回公募を開始」

公募期間 2021年10月18日(月)～11月5日(金)

<https://www.meti.go.jp/press/2021/10/20211018001/20211018001.html>

https://www.jwrf.or.jp/individual/prj_000369.html

■農水省「令和2年度補正予算(第3号)「畜産バイオマス地産地消対策事業」の5次公募を開始」

公募期間 2021年10月20日(水)～11月15日(月)

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/biomass/>

■新潟県「令和3年度新潟県再生可能エネルギー設備導入促進事業補助金の三次公募」

公募期間 2021年10月13日(水)～11月30日(火)

<https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/sogyosuishin/1356915935143.html>

■(一社)日本森林技術協会「令和3年度スマート林業Web技術展示の募集案内について」

募集期限 2021年11月26日(金)

http://www.jafta.or.jp/contents/information/432_list_detail.html

■脱炭素チャレンジカップ事務局「アイデア賞募集」

応募締切 2021年11月30日(火)

<https://www.zenkoku-net.org/datsutanso/entry.php#oubo>

■(公財)廃棄物・3R研究財団「令和3年度『二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(我が国循環産業の戦略的国際展開による海外でのCO2削減支援事業)』」

公募期間 2021年5月11日(火)～11月30日(火)

■(独)環境再生保全機構「地球環境基金助成金募集のご案内」

受付 2021年11月11日(木)～12月2日(木)

<https://www.erca.go.jp/jfge/subsidy/application/index.html>

■埼玉県「【令和3年度】埼玉県分散型エネルギー利活用設備整備費補助金」

公募期間 2021年5月17日(月)～12月17日(金)

<https://www.pref.saitama.lg.jp/a0503/bunnsanngata-hozyo.html>

■（公財）ひょうご環境創造協会「令和3年度中小事業者省エネ設備等導入支援事業補助金」

募集期間 2021年5月10日（月）～12月24日（金）

<http://www.eco-hyogo.jp/global-warming/tyuushou2021/>

■（公財）自然保護助成基金「第7期（2022年度）協力型助成 国際 NGO 助成募集」

募集期間 2021年10月1日（金）～2022年1月5日（水）

https://www.pronaturajapan.com/foundation/teikei/teikei_category.html

■静岡県浜松市「浜松市木質バイオマス設備導入支援事業費補助金」

受付期間 2021年4月15日（木）～2022年1月31日（月）

https://www.city.hamamatsu.shizuoka.jp/shin-ene/new_ene/mokushitsuhojokin.html

■東京都地球温暖化防止活動推進センター「地産地消型再エネ増強プロジェクト」

受付期間 2021年4月1日（木）～2022年3月31日（木）

<https://www.tokyo-co2down.jp/subsidy/chisan-zokyo>

■東京都「地方卸売市場省エネルギー等対応施設整備補助金」

受付期間 2017年4月1日（土）～2022年3月31日（木）

<https://www.shijou.metro.tokyo.lg.jp/jouhoukoukai-portal/pdf/jiritsu/hojo/g3-3.pdf>

■農水省「農林漁業者とバイオ燃料製造業者の連携によるバイオ燃料製造支援」

適用期限 ～2022年3月31日（木）

<https://www.maff.go.jp/j/shokusan/bio/nenryoho/>

■東京都「東京都区市町村との連携による地域環境力活性化事業」

事業期間 2014年度～2023年度

http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/policy_others/municipal_support/current.html

<http://www.pref.nara.jp/23346.htm>

※融資制度

■静岡県富士市「令和3年度中小企業者温暖化対策事業費補助金」

<https://www.city.fuji.shizuoka.jp/kurashi/c0903/rn2ola00000cn7d.html>

■高知県「高知県木質資源利用促進事業費補助金」

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/030501/2019022200068.html>

■高知県「再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/610301/2015060100117.html>

■高知県香南市「香南市燃料タンク対策事業費補助金」

http://www.city.kochi-konan.lg.jp/reiki_int/reiki_honbun/r254RG00001291.html

■高知県仁淀川町「仁淀川町再生可能エネルギー利活用事業費補助金」

http://www.town.niyodogawa.lg.jp/reiki/reiki_honbun/r191RG0000129.html#e000000030

■北海道「林業・木材産業改善資金」

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/sr/rrm/kaizennshikinn.pdf>

■栃木県「栃木県環境保全資金（省エネ設備等の導入）」

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d02/eco/kankyou/ondanka/syouene-setubi-yuusi.html>

※融資制度

■徳島県「自然エネルギー立県とくしま推進資金貸付制度」

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/jigyoshanokata/kurashi/shizen/5007685/>

※融資制度

■奈良県「新エネルギー等対策資金」

■（公財）日本環境協会「令和2年度環境配慮型融資促進利子補給事業」

https://www.jeas.or.jp/activ/prom_24_00.html

※融資制度

■横浜市「よこはまプラス資金（環境・エネルギー対策）」

<https://www.city.yokohama.lg.jp/business/bunyabetsu/kankyo-koen-gesui/plus/hozenshikin.html>

※融資制度

■千葉県「環境保全資金（制度全般事業認定）」

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shigen/chikyukankyou/ne/shien-jigyousha.html>

■千葉県市原市「市原市企業立地促進条例」

<http://www.city.ichihara.chiba.jp/kanko/0205sangyou/kigyourittigaido.html>

■千葉県南房総市「南房総市施設園芸用木質バイオマス暖房機設置費等補助金」

<https://www.city.minamiboso.chiba.jp/0000007149.html>

■（独）農林漁業信用基金「災害で被災された方の支援について（新型コロナウイルス感染症による影響を含む）」

<https://www.jaffic.go.jp/guide/rin/shien/index.html>

■NEDO「木質バイオマス燃料等の安定的・効率的な供給・利用システム構築支援

事業」に係る第2回公募について（予告）

公募期間（予定） 2021年11月下旬～約1カ月間

https://www.nedo.go.jp/koubo/FF1_100340.html